

# ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

世界史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	総人(文)・教育(文)・経済(一般) 100点 文・法 50点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

形式はほぼ昨年同様であるが、短文論述の出題数がやや増加した。内容的にも、難易度においても例年と大差は無かった。

〈特記事項・トピックス〉

今年はⅠの論述で現代史関係が問われた。

Ⅱでは短文論述が3題出され、また、新傾向としてⅡのBに地図問題も出題された。

ⅡのBが、2008年度第1回京大実戦模試のⅡとほぼ同一問題であった。

〈合格への学習対策〉

論述問題には十分な対策を練ってもらいたい。かなりの得点差が生じることになる。またⅡの下線設問や空欄穴埋めなどでの漢字のミスにはくれぐれも注意しよう。ⅡやⅣの短文論述も意外に時間がかかるので、時間配分などへの配慮が必要である。古代から現代までの、全時代・全分野に目を配って、単なる暗記にとどまらないようにしてもらいたい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	論述 (300字)	インド現代史	ヒन्दウー・イスラム両教徒の動きとイギリスの政策	やや難
Ⅱ	空欄補充 下線設問	A 地図から見た中国と周辺地域	古代から清代までの地図や地理書にまつわる設問	やや難
	空欄補充 下線設問	B 朝鮮半島の各王朝	朝鮮(新羅・高麗・李朝)と中国王朝との関係史資料として地図が添付	やや難
Ⅲ	論述 (300字)	大航海時代の新・旧両大陸における変化	指定語句を使つての「変化」についての論述	標準
Ⅳ	下線設問	A 古代ギリシア・ローマ史	古代ヨーロッパの政治制度	易
	空欄補充 下線設問	B 中世ヨーロッパ史	ヨーロッパにおける種々の民族移動	標準
	下線設問	C 近現代におけるロシア・ドイツの関係史	ロシアを軸とし18世紀から20世紀における東欧関連史	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。